

アジアから学ぶ 中国ビジネス

文・写真：須賀努〜コラムニスト、アジアンウオッチャー。寺子屋チャイナ主宰 www.yyisland.com.yy/terakoyachina

撮影：佐渡多真子



コストの高い香港だが

第9回

香港に拠点を持つ意味

以前からのお知り合いが

香港に赴任したとの連絡を貰った。何と彼は「本社が香港に移転した」のだそうだ。日本企業が香港に本社を移す、新しい動きが出てきている。

何故本社を香港に移したのか。「日本人オーナーが日本に嫌気が差したからではないか」と彼は推測している。日本では上場しているにも実には細かい、本質的でない資料を要請され、何よりも前向きな将来を語るのではなく、前期の決算をこと細かくチェックされる。企業オーナーとしては、「これからの、上場後の我々の姿を見てよ」と思っているのに、日本は過去に拘り過ぎていて。日本人は株や不動産に投資する際も過去のトラックレコードを重視する。だから「日本の個人が買いに入った時がその商品のピーク」と世界の金融界では常識のように言われている。

いる。

でも何故香港なのか、何故シンガポールではないのか。「わが社は売り上げの多くが中国関連ビジネスであり、その業務内容を十分理解してもらえれば、投資家を探すのも、融資を受けるのにも有利だから」とのこと。確かにシンガポールより香港の人の方が中国ビジネスに関しては良く理解している人が多いだろうし、ましてや日本の銀行から融資を受けるには香港の方がはるかに理解されるだろうところだ……。

「日本の銀行の中には融資を断って来たところもある」とか。その理由として「御社は本社が香港で、売り上げの多くが中国ですから、もはや日系企業ではない」と言われて唖然としたという。「日系か非日系かで融資判断をする日本の銀行は既に終わっている」と友人は嘆く。元銀行員とし

ては耳の痛い話であるが、確かにその区分けはある。ただ某大手邦銀は率先して融資を引き受けてくれたとも言える。しかしその理由が「非日系への融資比率を高めるため」だったとしたらどうだろうか。

香港にいる外資系の投資ファンドなどは事業内容を評価して、積極的に資金を入れて来ている。「香港に居ると動きの速い香港系、外資系のテナポが嬉しくなる」とのこと、普通のビジネスが出来る環境が整っているという。ただ「弁護士や会計士の費用は高いですね」との不満も漏れる。それとて「日本の弁護士さんはリーガルオピニオンすら書かない人が沢山いる。香港ではこれらの専門性が評価され、かつ重大な責任を負うのだから、高くても文句は言えない」とキツパリ。

日本の、特に中小企業はこれからの活路を香港に見出しては如何だろうか。中国ビジネスをするにしても中国国内にどっぷりつか

のではなく、香港からアジア全体を視野に入れながら展開していく。もし本当に実力のある企業であれば日本より遙かに有利な資金調達もできるだろうし、有益な情報を生かして新たな取引先も開拓できるのでないだろうか。日系だ、非日系だと訳の分からない區別をする日本を思い切つて脱却して、新たなパートナーを探すが、将来のためになると思える。但し香港の生き馬の目の抜くようなスピードにはくれぐれもご注意を。

毎週、本誌がお手元まで確実に届く、定期購読（有料）/1年間・360元〜をお勧めします。

ホームページからお申し込みください

小社直送にて購読をご希望の方は、
TEL: +86-755-8351-6250 または
E-mail: pub-manager@kanan.cn
(発行局宛)へ。クーリエにて毎月配送いたします。
<http://www.kanan.cn/upimg/youliao.pdf>

【日系企業の文化・習慣を学びたい
中国人社員にも人気です】

